

文字大きさ=L字 132倍4×23行 ■論点L字

校正回数 = 57

最終更新時刻=07月07日20時03分07秒  
出力指示時刻=04月14日17時38分12秒  
YTO KMK 47  
YB001356060928

箱

組

昨年10月に観光庁が発足して以降、世界経済は厳しい状況に陥り、2010年までに訪日外国人客数を1000万人とする政府目標の達成が困難になってきている。ただ、この数値は、近隣諸国の所得水準の向上を暗黙の前提にした予測値に過ぎない。同行が打ち出した20年まで2000万人という新たな目標を実現するためには、単なる市場予測ではなく、各国の経済成長率等も織り込んだ政策目標として組み立てる必要がある。

欧州の経済対策は公共投資だけでなく、バカンス法等の休暇増加策や旅行クーポンの配布などにも取り組んでいる。我が国の高速道路料金的大幅引下げも、全国の

# 論点



寺前 秀一

高崎経済大学教授。観光学博士。著書に「ユビタス時代の人流」など。59歳。

## 観光立国

観光地をより広域の競争にさらすことになるが、これにより観光市場が活性化すれば成功だろう。

1930年、鉄道省に設置された国際観光局は、大恐慌直後だけににもかかわらず外貨獲得に大き

たのは、諸外国の観光客誘致策が効を奏したというよりも、日本人の外国、外国文化への憧れが大き

くかわっていた。これを踏まえれば、アジアの先進民主主義国としての、日本の独自の文化、芸術、

価値を払ったように、隣人は対価を支払ってくれる。そのためには日本の消費者自身が、自国の文化に

対して誇りと愛着を持ち、評価できる自を持つ必要がある。観光地の質の向上が、訪日外国人客の増加につながる、それがまた日本人の、自然や文化への誇り、愛着の

的に図る政策展開が必要である。具体的には、駅・空港と観光地との間の送迎にとまらず、自宅や出発地(国)との間の送迎までを視野に入れた「人流」を考えたい。人・モノ・カネ・文化・情報の流れにおいて、日本がアジアと世界の懸け橋となつてもに成長していくことを目指すアジア・ゲートウェイ構想や国際チャーター

# 「人流」とらえた構想必要

な成果を挙げた。ただ、今の日本は世界有数の債権国であり、当時とは大きく状況が異なる。2007年1月に施行された観光立国推進基本法には、国際的な地位向上に比べて訪日外国人客が少ない我が国の現状を改善したいという思いが投影されている。

戦後、日本人の海外旅行が増え

産業、そして社会システムへの理解が進めば、おのずと海外からの来訪者は増えるのではないかと。温泉について言えば、入浴機能だけにとまらず、日本料理、日本酒、陶磁器、日本旅館といった総合文化として評価されれば、日本人がフランス料理、ワイン、ワイングラス、シャトーホテルに対

こうした質の向上とともに、運送機関や宿泊施設等の選択権や価格決定権を、国際的にも日本が握るという態勢を作っていく必要がある。そのためには、観光を含め人が移動・交流する活動を「物流」ならぬ「人流」ととらえ、人流産業を振興しなければならない。観光、宿泊、運送の体質強化を総合的に図る政策展開が必要である。

まず、観光は地域の個性の発揮であるという考えを持ちたい。地域の創意工夫を生かした取組を国は尊重し、地方分権、規制緩和等により市場がうまく機能するように心がけるべきである。

便の規制緩和も効果が期待できる。観光地でも乗り放題タクシーなどの地域の創意工夫が発揮できる制度が用意されなければならない。高速道路の低価格のみならず、低コストの効率的人流システムの構築が必要である。

まず、観光は地域の個性の発揮であるという考えを持ちたい。地域の創意工夫を生かした取組を国は尊重し、地方分権、規制緩和等により市場がうまく機能するように心がけるべきである。

まず、観光は地域の個性の発揮であるという考えを持ちたい。地域の創意工夫を生かした取組を国は尊重し、地方分権、規制緩和等により市場がうまく機能するように心がけるべきである。